

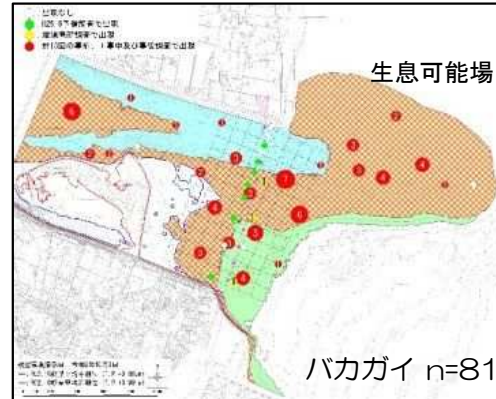
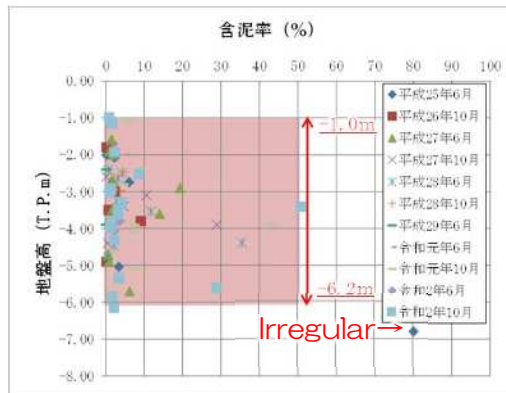
■ 浚渫の影響評価 ～ハビタット区分1の指標種のモデル化～



区分1の指標種のモデル化は、区分1が地盤高に関係なく砂質であることから、地盤高のみで生息可能場の予測を行った。

バカガイ n=81

- T.P. -6.2m ~ -1.0m に出現
 - 区分1に対して約99.0%の生息範囲
 - 予測した生息可能場での出現数は59地点
- ※H29.6、H30.6、H30.10は出現なし

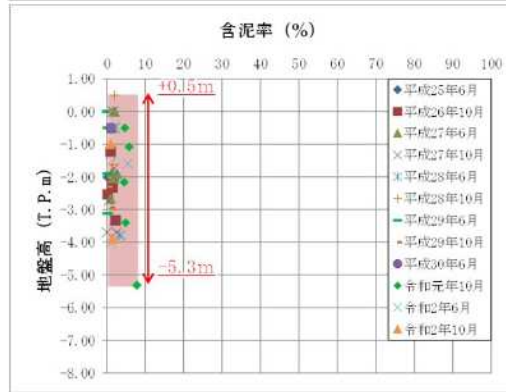


※ハビタット区分1の範囲から各種が出現した地盤高の範囲を抽出

- ①区分1の面積 : 2,084,804m²
- ②生息可能場面積 : 2,064,140m²
- ※区分1に対して99.0%

フジノハナガイ n=36

- T.P. ±0.5m ~ -5.3m に出現
- 区分1に対してすべてが生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は34地点

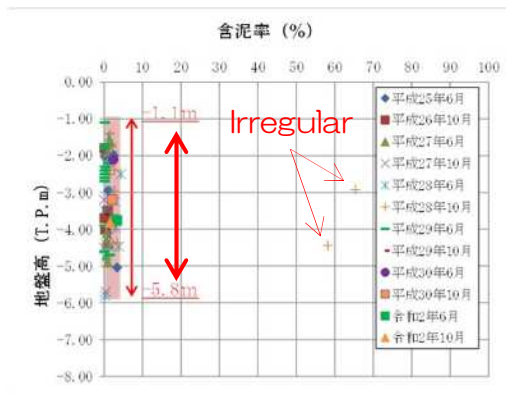


- ①区分1の面積 : 2,084,804m²
- ②生息可能場面積 : 2,084,804m²
- ※区分1に対して100.0%

※注意
 ・フジノハナガイは潮間帯定量調査でも確認されており、T.P.+0.5mで1個体、T.P.±0mで79個体、T.P.-0.5mで36個体確認されている。
 ・H30.6は潮間帯調査にのみ出現し、H30.10、R1.6の調査では出現が確認されなかった。

ヒサシソコエビ科 n=76

- T.P. -5.8m ~ -1.1m に出現
 - 区分1に対して約98.3%の生息範囲
 - 予測した生息可能場での出現数は64地点
- ※R1.6、R1.10は出現なし



- ①区分1の面積 : 2,084,804m²
- ②生息可能場面積 : 2,050,133m²
- ※区分1に対して98.3%

